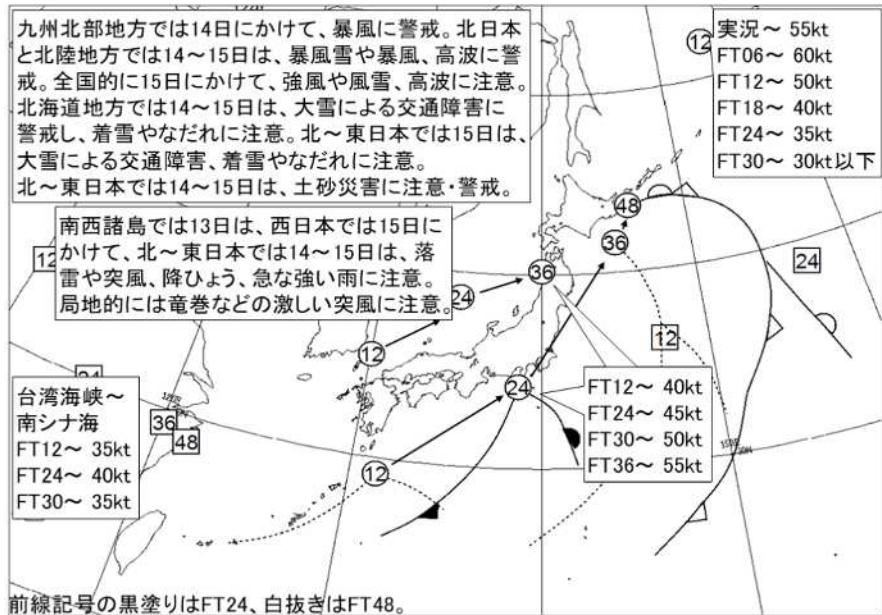


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5460m付近に-36°C以下の寒気を伴うトラフが華北にあって、東進。また、対馬海峡付近に低気圧があって、東進。東シナ海で非常に激しい雨を解析。
- ② 沖縄本島地方の南東海上に低気圧があって、ほとんど停滞。また、南西諸島付近は地上の谷となっている。低気圧や気圧の谷の周辺では、激しい雨を解析。
- ③ 沖縄本島地方付近と千島近海の低気圧の周辺や、日本海の高気圧の南縁では気圧の傾きが大きくなっている。北～東日本



主要じょう乱解説図

と南西諸島では、やや強い風や強い風が吹き、波が高くしけている所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は、500hPa トラフに対応して急速に発達しながら北東進、14日夜は北日本へ進む。また、1項②の低気圧は、500hPa 5760m付近のトラフに対応して前線を伴って急速に発達しながら北東進、14日朝は東海道沖、15日朝は千島近海付近へ進む。前線や低気圧の周辺では気圧の傾きが大きくなり、雪を伴った強い風や局地的には非常に強い風が吹き、波が高く大しけとなる所がある。九州北部地方では14日にかけて、暴風に警戒。北日本と北陸地方では14～15日は、暴風雪や暴風、高波に警戒。全国的に15日にかけて、強風や風雪、高波に注意。
- ② 2項①の前線や低気圧に向かう下層暖湿気と上空寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨の降る所がある。南西諸島では13日は、西日本では15日にかけて、北～東日本では14～15日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。また、東日本と東北地方では14～15日は、土砂災害に注意・警戒。一方、北海道地方では気温が低く、雪となり大雪となる所がある。北海道地方では14～15日は、大雪による交通障害に警戒し、着雪やなだれに注意。
- ③ 15日は日本付近は西高東低の気圧配置となり、850hPa -6°C以下の寒気が北～東日本に流入し、大雪となる所がある。北～東日本では15日は、大雪による交通障害、着雪やなだれに注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】

- ① 雨量(18時からの24時間)：伊豆諸島100mm。
- ② 降雪量(18時からの24時間)：北海道30cm。
- ③ 波浪(明日まで)：北海道7、東北・北陸6、伊豆諸島・近畿・中国5、その他3～4m。
- ④ 高潮(明日まで)：北～西日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

「暴風雪と高波及び大雪に関する全般気象情報」を17時頃発表予定。